

西村善文編  
**文明史畧**

二

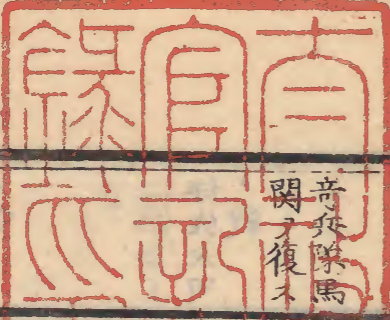
				和書門	
				三	四
				四	五
				一	函
				八	架
				四	冊
				類	

庫文閣内			
一		三	和
四		四	
函		四	
二	四	五	書
架	冊	號	類

内閣文庫	
番號	和 3445
冊數	4 ( 2 )
函號	140 51



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり



文明史略卷三



西村兼文 編輯

○慶應元年正月朔日夜長藩高杉春風稱晋作太

田市之進大村益次郎山縣狂介伊藤俊介井上聞

太等八十三人赤馬關ノ藩廳ヲ襲ヒ兵器彈藥ヲ

畧収シ尋テ軍艦ヲ奪フ蓋シ之レ俗論徒ノ三國

老以下ヲ殺スヲ憤リ俗黨ヲ斥ケ恢復ヲ圖ルナ

リ此夜撃ニ利ヲ得ルヤ軍資ヲ土豪ニ募リ散失

ノ奇兵隊ヲ集メ以テ菽城ニ迫ラントス四日

長征ノ總督大納言尾張慶勝此動搖ヲ知ラス廣

奇兵隊馬  
関ヲ復ス

尾総督廣  
島ヲ發ス

文明史略 卷之三

山陵修補ノ賞

伊佐太田ノ戦

立卿太宰府ニ還ル

鳥ヲ發シテ軍ヲ上方ニ凱ス 九日甲斐守柳澤保申駿河守植村家保奈良奉行組與力中條良藏帝陵修補ノ賞アリ 十三日長藩粟屋掠梨以下奇兵隊ノ變ヲ鎮壓セント大ニ兵ヲ起シ伊佐太田ニ出張ス高杉等僅三百人ヲ率中策ヲ設ケテ夜撃ニ及ヒ大捷ヲ得ル爾來三四ノ戦争悉ク俗論黨敗シ急ヲ幕府ニ訴フ高杉以下諸隊ヲ鼓舞シ遂ニ藩主ヲ山口ニ迎ヘ俗黨ノ主謀ヲ刑シ以テ一藩ノ方向ヲ定ム 此日三條卿以下ノ五卿赤馬関ヲ發シ筑前ニ渡海尋テ太宰府ニ居ス

坂本立馬遁ル

二閣老上京

廿二日副總督越前少將茂昭軍ヲ凱シテ京師ニ着ス 廿三日土藩坂本直柔馬伏水ノ旅寓ニ在テ京師ヲ窺フ幕吏之ヲ長州ノ周旋スト疑ヒ捕ヘントス直柔六連炮ヲ發シ捕卒ヲ倒シテ去ル爾來之ヲ索ムル嚴ナリ 廿七日浪人織田兵庫介黨類三十餘人ヲ京攝ニ縛ス 廿八日雅樂頭酒井忠績ヲ以テ大老ニ任ス 二月二日老中豊後守阿部正外伊豆守松前崇廣上京ス是幕府大ニ欲スル處アルヲ以テナリ 四日越前敦賀ニ於テ水藩脱走ノ巨魁武田正生山國兵部田九直

武田ノ徒  
ヲ斬派ス

中村圓太  
普腹

允藤田信朝倉彈正井田因幡岸信藏竹中萬次郎  
國分新太郎等二十二人ヲ斬シ武田藤田山岡田  
九ノ首級又水戸ニ傳ヘテ梟ス十五日又百三  
十人ヲ死刑ニ處シ次日九十六人ヲ斬ル十七  
日七十五人ヲ追放ス此日開化帝陵へ内大臣  
近衛忠房發遣筑前藩中村無二博多ニ於テ屠  
腹ス之レ先ニ長州ニ走リ大ニ國ノ為メ謀ル處  
アリテ潛ニ歸リシヲ俗論黨逼ツテ死ス十九  
日敷賀ニ於テ又武田ノ徒七十五人ヲ斬ル廿  
二日十六人ヲ又斬シ次日百四十人ヲ追放ス

廿四日豊後守阿部正外京師ヲ發シテ歸東ス救  
諭アリ曰外夷ノ大患防長ノ所置ハ皇國ノ治亂  
ニ關ス大樹迅速ニ上京シ國是ヲ熟評ヲ奏セ  
此日京師ノ警衛トシテ中納言紀伊茂承着ス  
三月七日浪人佐々木左衛門ノ伴類二十七人ヲ  
京坂ニ捕ヘテ獄ニ下ス十九日幕府長防ノ激  
徒再發ヲ聞ヘアリ之ヨリ先キ塚原但馬守御手  
洗幹一郎ヲ遣テ抗命セハ大樹進發スヘキ令ヲ  
尾張前大納言以下ニ達ス廿六日洛東祇園新  
地火ク戸數九百七十二餘ヲ燬四月朔日大樹自

ヲ毛利家ヲ征伐セント老中豊後守阿部正外參  
 政信濃守遠山友禎監察木村攝津守高木宮内等  
 ニ此日扈從ヲ命シ軍事ヲ管セシメ中納言前田  
 齊泰ニ留主ヲ託スニ五日幕府五卿以江戸ニ遷  
 スヘキ命ヲ筑前ニ下ス 七日改元慶應下改ム  
 十七日東照宮二百五十回ノ神忌ニ因リ梶井  
 宮昌仁親王ヲ始メ公卿申光山ニ幣使下為ス  
 廿一日大樹長征ノ行軍ヲ駒場野ニ試ミル大納  
 言慶勝其出師ノ無名ヲ以テ之ヲ止ムレトモ容  
 ラレス安房守勝安芳又諫メテ却テ忌ムルニ五

東照宮二  
 百五十回  
 忌

大樹行軍  
 ヲ駒場野  
 ニ見ル

對州藩内  
 乱

月朔日對州藩平田大江多田總藏ノ徒奸邪ニ切  
 迫セラレ筑前ニ走リ援ヲ長州ニ請フテ快復ヲ  
 謀ル長藩回天隊筑前藩ト兵ヲ合シ三月ヨリ其  
 國ニ航海シ正邪ヲ探索シ遂ニ此夜田島石見大  
 庭佐治右衛門阿比留喜介ヲ暗殺シ次テ翌二日  
 ノ夜魁首勝井五三郎ヲ始メ諸方勇一郎古賀喜  
 平太篠原藤太和滝正八ヲ併殺ス 三日薦田徹  
 助馬山小四郎八坂順之介大東寛之介并有輔ヲ  
 切殺シ安達土肥之介加納節藏外三人ニ屠腹セ  
 シム蓋シ此輩勝井ニ一味シ苛酷ノ所置ヲ以テ

正義ヲ屠戮スル多キ故ナリ 六日對藩立石郡  
 兵衛内野喜一郎田中壯次郎等ヲ又割腹セシム  
 此余禁錮ノ者殊ニ多シ後日幕府此報ヲ得テ浮  
 浪此國ニ據テ不軌ヲ謀ルトナシ以テ肥前守鍋  
 島茂實以下ヘ其鎮壓ヲ命ス 十六日大坂京橋  
 口信貴野ノ焰硝庫中ニ火ヲ失シ大ニ暴發シ死  
 傷三十人アリ 十六日大樹家茂長征ノ為メ江  
 戸城ヲ發ス老中豊後守阿部正外伯耆守松平宗  
 秀伊豆守松前崇廣周防守松平康英少老信濃守  
 遠山友祿山城守土岐頼之出雲守立花種恭對馬

大樹江戸  
 城ヲ出師

守増山正修講武所奉行遠藤但馬守胤城渡邊甲  
 斐守孝經陸軍奉行竹中丹後守重固溝口伊勢守  
 勝如步兵奉行河野伊豫守通仰小出播磨守英道  
 大番頭米倉丹後守昌言齋藤攝津守以下籓下ノ  
 扈從舉ルニ堪ヘス前軍ハ尾張大納言茂徳洞玄  
 後軍ハ紀伊中納言茂承先鋒ハ掃部頭井伊直憲  
 式部大輔柳原政敬夕リ蓋シ此大兵ノ陸續スル  
 ヤ五日ヨリ廿一日ニ及フ大老雅樂頭酒井忠績  
 共ニ陸奥守伊達慶邦美濃守南部利剛命ヲ受テ  
 江城ヲ留主ス 閏五月十一日土州ニ於テ岡田

土藩正義  
ヲ倒ス

以藏ヲ刑シ武市半平太岡本次郎村田忠三郎ヲ屠  
腹セシメ河野重太郎小畑孫三郎森圓三郎山本  
喜之進島村壽之介安岡覺之介小南五郎右衛門  
田村新作等ヲ幽ス是尊攘ノ大義ヲ明ニセント  
同藩ヲ害シ或ハ闕下ニ天誅ヲ行ナヒ或ハ國君  
ニ迫ルノ罪ヲ以テナリ 十三日中納言前田齊  
泰入京ス是レ幕府長征ニ依リ禁闕ヲ守衛ナス  
ナリ 十六日畿内東山北陸大風雨江濃ノ川々  
滿水長征ノ幕兵所々ニ滞留ス 二十日大樹膳  
所泊城ノ處前夜人アリテ膳所藩不軌ヲ謀ルト

諸國大風  
雨

膳所ノ變

告ク依テ大樹此ヲ過キ進ンテ大津ニ泊シ主膳  
正本多康攘ニ令シ其臣數十人ヲ禁錮セシメ次  
日圓滿院ノ臣河瀬定頼大津ノ小吏上原綱藏ヲ  
京獄ニ下ス此時定ノ妻自盡ニ及ス水藩鯉沼伊  
織以下脱走ス蓋シ此舉不軌ヲ謀ルニアラス無  
名ノ長征ヲ論駁シ以テ止メント欲スル處ナリ  
廿二日大樹洛ニ入り直チニ禁闕ニ參シ長征  
ノ趣意ヲ奏ス 二十四日大樹京師ヲ發シ伏水  
ニ泊ス次日大坂城ニ入り大柿ヲ此ニ留シ分營  
ヲ各所ニ構フ 六月十一日阿波宰相齊裕淡路

大樹大坂  
ニ屯營

阿州侯幕府へ上書

徳山岩田上坂ヲ命ス

守茂詔父子幕府ニ書ヲ呈シテ曰長州家ノ罪状御糺明天下一般鳴罪ノ上御進向アリ度ト備前因州ニモス、ム二十三日大坂城ニ於テ藝洲藩福永助左衛門へ毛利淡路吉川監物上坂ノ命ヲ達ス二十九日相州箱根大ニ火ク七月八日肥後守大關增祐少老格ヲ以テ海軍奉行トナル八月八日采女正戸田氏彬大坂ノ陣中ニ病歿ス十四日親子内親王ノ實母橋本氏觀行院江戸ニ卒ス九月十二日島原藩大竹直記中村端平川島昇伊藤虎之介以下重臣松坂丈右衛門

島原藩老臣ヲ梟首ス  
外國松兵庫ニ入ル

ノ不臣ヲ惡之ヲ殺シテ梟首シ以テ其罪ヲ請フ十八日英吉利佛蘭西和蘭ノ軍艦九艘攝海ニ入港ス十九日老中松前伊豆守外國奉行山口駿河守小笠原刑部入京異船ノ義ニ付請フ處アリ免サレシテ歸坂ス二十日備後福山火ク廿二日佛蘭西公使ヨリ書ヲ幕府ニ呈シ改テ条約ノ救許ヲ請ヒ且兵庫ノ開港ヲ迫リ幕府ニ於テ處スル能ハサレハ直チニ闕下ニ詣リ之ヲ辨セシ廿三日老中阿部豊後守兵庫ニ抵リ應接スト雖モ能スシテ歸坂ス廿五日大樹大

天明史略

卷之三

二



坂ヨリ一橋慶喜ヲ呼フ其書ニ曰國家重大危急存亡ノ事件差起ル依テ迅速ニ下阪スヘシト慶喜騎ヲ馳セ守口ニ於テ上京ノ小監察ニ會シ廿六日坂城ニ登リ豊後守伊豆守私斷ヲ以テ開港ニ決定スヲ聞キ其凶状ヲ譴責シ井上主水正ヲ兵庫ニ遣リ回答ノ期ヲ延シ以テ豊後守伊豆守ノ老中ヲ止ム 廿八日慶喜歸京シ二閣老ノ無状ヲ奏ス 十月朔日朝廷大ニ豊後守伊豆守ノ專斷ヲ責メ官位ヲ削ク幕府又之ヲ國ニ歸シ以テ幽墊ヲ命ス 二日大納言尾張茂徳關白二條

阿部松前ノ官位ヲ止ム

大樹辭職歸京ノ變

齊敬ノ亭ニ詣リ大樹家茂幼弱不支征夷ノ職ヲ慶喜ニ讓ラント呈書ス關白之ヲ聽サス返ス此時篠下大ニ沸騰シ大樹ノ滯坂ヲ不可トシ歸東ヲ促ス遂ニ明日陸路東歸ノ令ヲ布ク一橋慶喜松平容保松平定敬此報ヲ聞キ内ニハ長防ノ所置ヲステ外ニハ異船ノ切迫アリ燒眉ノ急ヲ京師ニ荷セ其不義ノ凶状ヲ止メント深夜伏水ニ發ス 三日一橋會津桑名ノ三侯伏水ニ於テ大樹ニ謁シ再三ノ諫止疑念氷解ニ至リ歸東ヲ止テ一旦入京ス 五日中納言慶喜中将容保少

將定敬小笠原壹岐守長行連署朝廷ニ請フテ曰  
外艦兵庫ニ泊シ条約改メテ敕許アルヘシ幕府  
慶スル能ハスニハ闕下ニ直訴セント臣等盡力  
シ時日ヲ延ス敕許ヲ得サレハ干戈ヲ動カサン  
一旦勝算アル共彈丸ノ地何ソ萬國ニ敵セシ幕  
府ノ存亡ハ問ハス寶祿ノ安危ニ拘リ萬民塗炭  
ニ苦シク治國安民ノ職務施行ナシ難ク之ニ依  
テ條約敕許アラシ事ヲ望ム 六日朝廷諸藩士  
ヲ虎ノ間ニ召シ佛蘭西ノ呈書ヲ示シ閑鎖ノ是  
非ヲ問フ各藩同論閑國ヲ是トシ薩州備前二藩

朝廷諸藩  
士ニ閑鎖  
ヲ問フ

条約敕許

ハ鎖國ヲ是ト為ス然レテ条約敕許ニ兵庫閑港  
ハ止ノラル 七日彈正尹朝彦親王上書ス積年  
ノ叡慮不貫徹ハ臣ノ不忠ニ依ル請フ扶助ヲ免  
サレント又野々宮中納言定功モ皇國失體ノ基  
ヲ開クト傳奏ヲ辞表ス 此日老中伯耆守松平  
宗秀少老出雲守立花種恭大目附主水正永井尚  
志對馬守田澤政跡以下兵庫ニ至リ外國ノ公使  
ニ條約敕許ノ應接ヲ調フ 九日大樹家茂退隱  
ノ奏書罷命ヲ以テ戻サル 此日外國船兵庫ヲ  
護シテ退帆ス 十五日周防守松平康英昨年常

穴戸井原  
出藝

膳所藩正  
義ヲ倒ス

野追討ノ戦功ヲ賞シ二萬石ヲ加増ス大目附大  
久保紀伊守駒井相摸守勘定奉行松平備中守松  
平對馬守等ノ役義ヲ止メ謹慎ヲ命ス蓋シ之レ  
大樹ニ東歸ヲ促カスノ罪ナリ 十七日長州ノ  
重臣穴戸備後介井原主計幕命ヲ奉シ此日廣島  
ニ出大坂ニ至ラントス幕府之ヲ止メ糾問使ヲ  
向ハシム 廿一日膳所藩保田信解田河藤馬允  
阿閉權之丞楨島錠之介ヲ屠腹セシメ渡邊總介  
深栖俊介増田仁右衛門森喜右衛門高橋雄太郎  
大羽俊藏高橋作也ヲ死刑ニ處シ谷口光藏以下

筑前水戸  
多クノ藩  
臣ヲ暴殺

十餘人ヲ禁錮ス之レ河瀬定二徒スルノ罪ヲ以  
テナリ 廿三日筑前ノ老臣黒田播磨矢野相摸  
ヲ禁錮ニ為シ月形洗藏海津幸藏鷹取頼巳伊藤  
清兵衛伊丹真一郎森勘作等十五人ヲ刑シ山内  
俊郎野村助作以下十四人ヲ孤島ニ幽シ 廿四  
日水戸藩執政尾崎豊後杉浦恙次郎以下廿六人  
或ハ禁錮或ハ謹慎ヲ命シ 廿五日岡田新太郎  
美濃部又三郎有賀半藏小林六左衛門武藤善吉  
等十六人ヲ刑ス之レ武田伊賀守ニ黨スルヲ以  
テナリ 廿五日筑前藩加藤徳成司衣斐頼之記

建部自強武彦齋藤定廣五七二屠腹ヲ命ス廿六

日万代重兵衛森安平尾崎總右衛門等又割腹セ

レノ新野十兵衛以下九人ヲ孤島ニ幽レ河合新

八郎以下謹慎隠居タル者二十二人悉ク幽レ尊

攘ノ大義ヲ唱ヘ俗論黨ニ忌ナルノ處ナリ十

一月四日大監察永井主水正小監察戸川鉾三郎

松野孫八郎大坂ヲ發レテ廣島ニ向フ是ヨリ先

ト京坂ニ於テ捕フル長州浪士赤坂武人峯郡之

介淵上郁太郎等ヲ諭レ歸國ナシメント新選

組浪士ノ隊長近藤勇伊東武明甲子之ヲ同伴ス

新選組停  
廣ヲ歸シ  
テ策ヲ設  
ク

幕兵廣島  
ニ發ス

十一日大老雅樂頭酒井忠績職ヲ辞ス十二

日作州津山城火ケ武器彈藥ヲ盡ス十四日大

樹大坂城外ニ於テ長征ノ行軍ヲ試ル十六日

陸軍奉行竹中丹後守出兵奉行河野伊豫守戸田

肥後守騎兵頭並山角磯太郎以下歩兵二大隊小

筒騎兵各二小队大砲一座ヲ率キ大坂ヲ發シテ

藝州ニ向フ此日大小監察廣島ニ着ス十九

日老中伯耆守松平宗秀少老玄番頭田沼意尊大

坂ヲ發シ海路急ニ東下ス廿一日掃部頭井伊

直憲兵部少輔井伊直安大坂ヲ發シ廣島ニ向フ

長藩出藝

大樹追手ニ於テ其行軍ヲ見ル 廿六日式部太  
輔榊原政敬又大阪ヲ發軍ス 此日河内守井上  
正直ヲ以テ老中ト為シ外國ノ事務長征ノ從軍  
ヲ命ス 此頃長藩幕令ニ依リ廣島ニ出テ糾問  
ニ應答スヘシト宍戶備後介木梨彦右衛門赤川  
又太郎小田村素太郎廣澤藤右衛門河瀬安治郎  
大津四郎右衛門國重篤次郎井原小七郎入江嘉  
傳治等寺々ニ泊シ其期日ヲ待ツ 十二月七日  
紀州ノ先鋒飛彈守安藤直行大阪ヲ發シ廣島ニ  
向フ 駕司准后政通入道拙山從來勤王且艱老

養老典

山陵修補ノ賞

泉涌寺ヲ諸寺ノ冠

トシテ毎年五百俵ノ恩賜ノ賞アリ 十二日江  
戸淺草ヨリ火ク西北風ニテ大ニ延焼ス 十五  
日幕府大小ノ監察廣島ニ於テ宍戶備後介ニ七  
條ノ糾問アリ備後介之ニ對シテ理義明白ニ答  
フ 十六日大小監察廣島ヲ發シ海路大阪ニ歸  
リ長藩ノ所置ヲ談合ス 廿八日越前守戸田忠  
恕ノ先祖忠次二郎右衛門ニ從四位ヲ贈ラル是山陵  
修補ノ賞タリ此日松平慶永以下七諸侯へ同賞  
アリ 廿九日所司代越中守松平定敬先年来勤  
勞ノ賞トシテ中将ニ昇ル 洛東泉涌寺ハ四條

トス

高津ノ鳥居折ル

防長ノ處置奏聞

帝以來歷代ノ山陵守衛ノ官寺皇祖尊敬ノ譯ヲ以テ諸寺ノ上座ト為ス

○二年正月十一日大坂高津ノ神社南ノ石ノ大鳥居故ナク笠木折ル諸人以テ凶兆トナス

七日幕府會津中將容保ニ精鐵四文錢ノ鑄造ヲ許ス

廿二日一橋中納言會津中將素名中將板倉伊賀守小笠原壹岐守等防長ノ所置ヲ奏聞シテ曰十萬石減知藩主落銜退居世子永蟄居朝敵ノ名ヲ除キ三家老家名斷絶朝廷之ニ諭シ毛利家ハ從來有功ノ家柄筵篔ヲ進メス宸襟ヲ安ス

加茂川ニ新橋ヲ架ス  
小笠原閣  
老出藝

ヘシト之ニ依リ再奏シテ曰藩主落銜寺入封土十萬石ヲ削リ脱藩淳浪ヲ本國ニ渡シ再發ノ激徒ヲ悉ク斬シ毛利家ノ血食ハ末藩ノ内ヨリ選フ朝廷又寛典ヲ行フヘシト諭ス

廿八日山陵奉行大和守戸田忠至ヲ諸侯ニ班ス

二月朔日洛東加茂川荒神口ニ新橋ヲ架ス此日ヲ以テ造營ヲ始ム

三日老中小笠原長行以下大坂ヲ出帆シテ廣島ニ向フ

十九日倭武尊宇治王子ノ二陵修補ノ命アリ

三月廿七日小笠原長行廣島ニ於テ実戸備後介ニ傳達ス曰藩主父子末藩

捕葉村ニ  
関門ヲ建  
ル

長藩備中  
ニ冠ス

ノ内来ル廿一日迄ニ出藝スヘシ 四月二日上  
總國木更津村大火 六日宍戸備後介小田村素  
太郎赤川又太郎廣島ヲ發シ歸長ス 八日河州  
捕葉村ニ關門ヲ創築ス此日幕府小監察羽太庄  
左衛門ヲ遣リ地位ヲ檢セシム 十日長州南郡  
屯集兵ノ内百五十人東軍ノ廣島ニアツテ進マ  
サルヲ聞キ器械ヲ携ヘ脱走ニ及ヒ今晚備中國  
倉敷ヲ侵掠シ井山ノ寶福寺ニ轉陣ス 十二日  
倉敷ノ變廣島ニ聞ヘ戸田肥後守城織部歩兵一  
大隊大砲四門ヲ率キ攻伐トシテ備中ニ向フ

胤康丸

十三日昧爽脱藩士備中淺尾ノ陣舎ヲ攻撃相摸  
守蒔田廣孝ノ臣安原新次郎以下十三人戦死松  
浦十治郎等八人傷キ遂ニ燒ル 此日美濃守稻  
葉正邦老中ニ再職ス 十四日備前ノ兵淺尾ニ  
迫ル浪士少勢敵スル能ハス川邊川ニ退キ幕府  
ノ三兵隊ニ敗ラレ其軍士廿八人ヲ失フ又備前  
兵ニ捕ハルアリ 十五日大納言尾張茂徳同玄ヲ  
以テ清水ノ嗣ト為シ十萬石ニ封ス 十七日日  
州延岡慈眼寺ノ僧胤康京獄ニ病歿ス蓋シ此僧  
九州ニ在テ尊攘ノ大義ヲ唱フルノ嚆矢ニ行幕

丹州ニ石  
降ル

長州所置  
末藩ニ違  
ス

疑ヲ被リ獄ニアル事既ニ五年ナリ十九日丹  
後田邊ノ城下ニ拳ノ如キ氷降ル廿二日淑子  
内親王准三后一品消息宣下アリ廿四日丹波  
樋打村ノ田間ニ重サ四貫六百目ノ石ヲ降ラシ  
其音雷鳴ノ如シ五月朔日廣島國泰寺ニ於テ  
老中小笠原長行大監察永井主水正室賀伊豫守  
小監察牧野若狹守平山謙次郎等列シ長州末藩  
ノ名代ヲ呼ヒ其本家ノ所置ヲ傳ヘテ曰臣下統  
御ノ道ヲ失ヒ至犯ノ罪アリト雖モ寛大ヲ以テ  
封十萬石ヲ收ノ藩主父子蟄居三家老ノ家名断

宍戸小田  
村ヲ捕フ

兵庫大阪  
ニ窮民作  
ル

絶且ツ高杉晋作桂小五郎小田村文助天野謙吉  
村田治郎三郎太田市之進佐々木男也波多野金  
吾北條瀬兵衛佐世八十郎林主税山形半六等ノ  
十二人ヲ廣島ニ呼フ八日廣島ニ於テ宍戸備  
後介小田村素太郎ヲ捕ヘ藝州藩ニ禁錮ス蓋シ  
備後介ハ藩主ノ名代ニテ疾病ヲ以テ當日出サ  
リシナリ此報長州ニ聞ヘ益激シ死守ヲ為スニ  
至ル此日攝州兵庫邊ノ窮民四千餘人沸騰シ  
豪商三十六戸ヲ崩ヌ十三日大阪難波村ノ窮  
民二千余人起リ富戸二十七軒ヲ破ル蓋シ近時



米價貴キ故ナリ十五日若狹越前大風雨人屋  
ヲ倒ス多シ廿八日老中伯耆守松平宗秀廣島  
ニ着ス六月二日小笠原壹岐守長行廣島ヲ發  
シテ豊前小倉ニ向フ四日少老京極主膳正高  
富小監察大久保帶刀伊豫ニ着ス之レ四國ノ總  
督タリ五日藝州口ノ總督紀伊中納言茂承廣  
島ニ着ス六日中納言慶喜中將定敬朝廷ニ奏  
シテ曰長藩裁許ヲ違背シ國家ノ大典ヲ廢ス故  
ニ問罪ノ師ヲ向ケ硬命ノ者ヲ征伐スト又廣島  
ニ於テモ幕府ノ小吏石阪武兵衛滝田正作ヲ岩

幕府長州  
ニ發軍ヲ  
奏ス

阿州侯再  
ヒ長征ヲ  
諫ム

東軍大島  
郡ヲ乱ス

國ノ堺ニ遣リ硬命ノ者誅鋤ノ達書ヲ持ス岩國  
藩塩谷貞介一覽マテニテ執ルニイタラス四  
日阿波侯父子再ヒ書ヲ幕府ニ呈シ干戈ヲ長防  
ニ動カスハ皇國ノ亂緒ニ依リ意表ノ英斷ヲ以  
テ猶寛大ノ再議ヲ仰クト云フ八日河野伊豫  
守戸田肥後守大艦ニ乘シ歩兵ニ大隊ヲ率キ松  
山ノ先鋒菅五郎左衛門ト兵ヲ合シ防州大島郡  
油宇村ヲ襲ヒ見女ヲ殺シ揚陸亂妨ヲ極メ安下  
庄海岸ノ民家ヲ砲撃シテ去リ又蒸氣商船各四  
艘久賀村ヲ砲撃シ前島ニ繫船ス長人此日之ニ

彦根高田  
小瀬川ニ  
大敗

應セス 十一日東兵又大島郡ヲ砲撃ス長藩敗  
シテ廿一人ノ死傷アリ久賀安下ノ二村ヲ火ク  
十四日井伊両家柙原ノ三侯竹中丹後守ト兵  
ヲ合セ小瀬川ヲ涉リ脇村ニ進ム長藩八幡山ノ  
樹林ヨリ大小砲ヲ發射シ兵ヲ藝領油見立戸大  
竹ニ伏セ之ニ地雷ヲ起シ山々ノ撤兵又大ニ狙  
撃シ彦根ノ隊長貫名筑後ヲ始メ多ク傷キ大塚  
與一右衛門以下討タル、箒ナシ大敗走ニ及ヒ  
高田ハ廣島ニ退キ彦藩ハ廿日市ニ殿リス長軍  
進ンテ四十八坂ヲ隔テ要地ヲ占ム 十五日馬

長兵濱田  
ヲ掠奪ス

関ノ長藩大島郡ノ變ヲ聞キ兵艦ヲ發シテ之ヲ  
援ク陸軍又救ハシト日前村普門寺ノ東軍屯營  
ヲ侵シ遂ニ奪フ 十六日長兵觀音清水峠ニ進  
撃シ松山ノ軍大ニ敗ル 此日長將大村益次郎  
井上聞太兵ヲ率テ濱田領ニ乱入ス松江ノ隊長  
大野舍人濱田ノ將河鱒將監之ヲ雲雀山ニ拒キ  
松江ノ兵一旦長軍ヲ破ルト雖モ撤兵ノ狙撃ニ  
窘ラレ遂ニ濱田城ニ退ク 十七日石州口ノ長  
兵千余人曉霧ヲ侵シ濱田ノ陣ヲ襲ヒ撃テ之ヲ  
破リ紀州ノ先鋒安藤ノ軍大ニ狼狽シ松江福山

監軍戰死

小倉勢敗

濱田ノ兵奮戦スト雖モ幕府ノ軍目三枝刑部此  
ニ倒レ東軍遂ニ乱ル此時豊前ノ東軍赤馬関  
ヲ襲ハントス長ノ銳將高杉春風蒸氣三艘ヲ以  
テ田ノ浦文司浦ニ小倉兵ト戦フ小倉ノ總將島  
村志津广拒戦衆目ヲ驚カス然レトモ長兵上陸  
却テ後軍ヲ破ル志津广カナク軍ヲ収ム此日長  
兵三十余門ノ大礮ヲ得タリ十八日石州路ノ  
長軍又進ンテ濱田ニ至ラントス十九日曉紀  
州ノ先鋒水野大炊頭忠幹ノ陣營大野村ヲ長軍  
襲撃ス大炊頭自ラ衆ヲ激令シ能ク拒戦ス長軍

松山勢退

利ナク攻波ニ退ク水野ノ兵永田宗十郎尾関新  
作以下死傷三十七人アリ此頃防州久賀掠野  
ニ於テ松山勢連日敗軍ニ及ヒ此日長沼吉助松  
本定右衛門等十四人死シ岩國松之介以下十一  
人縛ニ就キ遂ニ軍ヲ收メテ國ニ還ル水野和  
泉守忠精老中ヲ辞シ松平縫殿頭兼謨老中格ト  
ナリ外國陸軍ノ事務ヲ兼任ス此日講武所奉行  
遠藤但馬守胤城頭取伴野七之介小監察古郡孫  
太夫以下ノ陸軍大坂ヲ發シ藝州ニ向フ廿日  
長兵ノ隊將益田孫槌藝州津田村ニ屯營スル別

文月史略

津和野長州ニ應ス

手組宮津勢ヲ襲ヒ死傷相當ル。京師三條橋ノ高札此夜人アツテ墨ニテ塗ル。廿一日長藩津和野城ニ迫ル。隱岐守亀井茲監孤城獨立ノ難キヲ以テ之ニ應ス。故ニ幕府ノ監軍長谷川久三郎主從ヲ長州ニ伴ナフ。廿四日上ノ関口應援松平隱岐守勝成へ軍目小堀大學石州口應援藤堂和泉守高猷へ軍目市屋左太夫ヲ遣ル。此夜流星ノ如ク又大ナル光物飛フ。廿五日曉長州勢藝州大野村屯集。紀州勢ヲ襲フ。幕府ノ軍艦紀州ノ砲臺船ト合シ長軍ノ後ヲ撃テ之ヲ走ラス。長ノ

大野村ノ戦

実戸小田村ヲ解ク

別軍間道ヨリ山ニ登リ大野村ヲ眼下ニ設砲シ紀勢殆ント破レントス。水野大炊頭憤戦遂ニ之ヲ拂フ。紀兵三浦平左衛門以下死傷多ク長軍マタ廿四人ノ死傷アリ。夜戌ノ刻巽ヨリ乾へ丈余ノ流星アリ。光り白日ノ如シ。廿七日老中伯耆守松平宗秀謀ル旨アリ。獨断ヲ以テ実戸備後介小田村素太郎ヲ解キ國ニ還ス。蓋シ宗秀薩人ノ陰ニ長州ヲ援ケ三都ノ藩邸ニ之ヲ潛マシ英人又銃砲彈藥ヲ贈リ九州四國石州ノ應援出兵少ナク且ツ兵器欠乏勝算ノ難キヲ察シ説諭ヲ

加へ聴ス處ナリ總督始メ井伊柳原等軍機ヲ沮  
ムト大ニ之ヲ憤リ以テ大阪ニ報ス 此日幕府  
主膳正本多康穰能登守加藤明實左衛門佐小笠  
原長守近江守朽木經張ヲ急ニ大坂ニ呼ヒ以テ  
長征ノ從軍ニ加フ 此月關東ノ所々ニ窮民蜂  
起シ豪戸ヲ破壊ス與羽ノ二州殊ニ甚シ之レ米  
價沸騰困乏ニ堪ヘス金穀ヲ求ムルナリ此時京  
師ハ五萬七千八百人ノ貧民ヲ四所ニ分テ日々  
赦米ヲ施シ極難ノ者ニハ猶篤ク之ヲ赦フ蓋シ  
市人ノ有志ヲ募リ此困難ヲ免カラシム

窮民各所  
二作ル

畧収 ウバヒ 軍資 金銀 兵糧 土豪 トコロノ 動搖 サハ  
凱ス カヘル ○保申 イモテ 家保 オホ 太田 長門國 美称郡 鼓舞 オダ  
○茂昭 モチノアキ 直柔 タナナリ 正外 マサナホ 巨魁 キョクワイカシラ 激徒 ハゲシキ  
抗命 アハリ ○友祿 トモアキ 昌仁 シヨウニ 苛酷 カク 暑戮 ヤカラ 不  
軌 ムホ ○茂實 モチノサチ 康英 ナホヒテ 種茶 タネチ 正修 マサナカ 亂城 クダシキ 重固 シゲカク  
勝如 カクノキ 昌言 マサノゴト 茂德 モチノノリ 陸續 ツクツク ○利剛 トシヒサ 康穰 ヤスシゲ  
定論 マシシ 駁大 バクタイ 旆 ハタ ○茂韶 モチノアキ 增裕 マサヒコ 氏彬 ウヂシゲ 亡  
狀 シマフ 謹責 ツツミテ 專斷 センダン ○定切 マサキ 政跡 セイセキ 孤島 コジマ  
衣斐 イヒ ○自強 ヨリヨシ 忠怒 チウニ 血食 ケツシヨク 羽太 ハイト 嗣 シ  
ヨツ ○胤康 イノカフ 嚆矢 カウシ ○淑子 シュシ 統御 トウゴ 硬命 カウメイ

オフセラ 誅鋤 スキコ 意表 オモヒ 殿 リ 河 カハ 鑄 バク 審 シ  
 ノムク 三枝 サイサイ 武聰 ブソウ 忠幹 チュウカン 激令 ゲキレイ 乘謨 セカ 茲監 ココアキ 勝成 カクセイ  
 高猷 カウキ 明實 メイジツ 綱張 クワウ 鑑寬 ケンケン 慶頼 ケイレイ  
...

宇和島侯  
出兵ヲ辭  
ス

文明史畧卷四

西村兼文 編輯

○慶應二年七月三日遠江守伊達宗徳書ヲ幕府  
 ニ呈シ長防ノ出兵ヲ沮ム松山ノ先鋒大島郡ニ  
 攻入り無敵ノ村落ヲ襲砲放火シ輕舉暴動大ニ  
 問罪ノ趣意ニ反ス故ヲ以テ其繫軍ヲ為サズト  
 云フ此日長州勢豊前ノ海陸ニ進戦ス先ツ陸  
 軍奇兵隊山内梅三郎一手長府小隊并ニ報國隊  
 兵ヲ潛シテ文字ノ関ニ伏セ高田謙ノ介一手彦  
 島ニ赴キ一護ノ砲聲ヲ相圖ニ同所山上弟子待



長藩豊前ノ地ヲ侵掠ス

ヨリ大里砲臺へ向ケ頻リニ連撃山内ノ隊ニ手ニ分レ前後ヨリ之ヲ挟ミ攻メ忽チ全村ヲ放火ス小倉勢敗走應援ノ支藩近江守貞正及ヒ幸松九ノ兩軍モ長濱赤坂ニ退去ス又幕艦富士山昇鶴セントウノ三艘長ノ丙辰丙寅兩艦ト激戰暫時ニシテ退帆勝敗ヲ決セス五日長防ノ人民書ヲ紀伊督府ニ呈シテ云閣老官津侯寛大ノ所置ヲ以テ拘留ノ備後今ヲ歸サレ國情了解改メテ平穩ヲ渴望スル處猶襲撃アルハ朝廷幕府ニ對シ恐懼ス請フ平常ヲ熟願スト中納言茂承此

森田要七川瀬太宰ヲ刑ス

書ヲ幕府ニ傳ヘ且ツ軍進退敵ノ重囚ヲ放遣スコレ宮津閣老ノ專断ニシテ總督ノ任有名無實ノ故ヲ以テ其職ヲ辞ス彦根ノ老臣新野左馬助高田ノ總將原田権左衛門等又切迫シ此際ニ方リ和ヲ講セハ幕府ノ衰替千載ノ遺憾ナリ乞フ今一戰セント云フ幕府之ニ諭シテ再戰ヲ命ジ援兵ヲ出サシム此日筑前藩齋田要七尚義正義ヲ以テ國ニ刑セラル尚義ハ變名小山田三郎長州ニ入り忠勇隊ニ列シ堺町口ノ攻撃大ニ勇名ヲ顯セリ六日京獄ニ於テ川瀬定幸ヲ刑ス

因藩世二  
士脱走

定ハ博學ニシテ正論ヲ主張シ膳所ノ一舉謀主  
夕リ 七日因州藩訖間半録河田左久馬太田權  
右衛門吉田平之丞塩川孝次永見和十郎中井範  
五郎足立八蔵等ノ二十二士亥ノ八月以來米子  
城ニ禁錮ス此夜脱走シテ長州ニ入ラント雲州  
路ニ間行ス因藩追捕トシテ多人數ヲ各所ニ發  
ス 十二日長將福原求馬中谷茂十郎林英次郎  
等兵ヲ率テ石州内田川周布川ニ濱田ノ軍ヲ破  
ル 十三日又六百餘兵ヲ以テ内井村ニ進撃シ  
松江及因州勢ト戦フ兩藩ノ大砲每門百發ニ及

ヒ然モ一九モ中ラス 十五日濱田要害ノ根據  
大麻山ヲ長軍精銳隊火箭隊期英隊井ノ口村ノ  
間道ヨリ襲ヒ放火ニ及フ濱田ノ兵大敗走長ノ  
弟二大隊一中隊司令國司四郎三郎此嶮ヲ奪ヒ  
之ニ據ル 十六日精銳隊期英隊一中隊雲雀山  
ヨリ周布川ヲ渉ル濱田兵防戦手痛ノ處第一大  
隊福原林等海岸ヨリ専称寺ノ横合ヲ撃チ遂ニ  
濱田勢敗軍長兵門田村ニ慕ヒ安藤飛彈守ノ殘  
兵一時ニ破レ正法寺ノ牙營ヲ取ラル此時長軍  
得ル處米製ホト五ツ臼砲ニツ和製大砲三門



濱田城自燒

薩州建論

ナリ進ンテ濱田ニ迫ラントス同藩岡尻明之丞  
 フ使節トレ止戦ノ應接談判ニ及ヒ依テ暫時兵  
 フ休ム 十八日濱田ノ藩主右近將監松平武聰  
 疾病ニ罹リ蒸氣船ニ駕シ雲州杵築ニ退去ス之  
 ニ依テ其臣属防禦スル能ハサルヲ以テ城郭ヲ  
 盡ク自燒ス 大樹大坂ニ於テ重病ニ惱ム此日  
 飛鳥井中納言雅典ヲ天使トシ醫員高階經由典  
 允福井登<sub>守</sub>豊後ヲ遣リ以テ其病ヲ問ス 二十五  
 日修理大夫島津茂久幕府ニ書ヲ致シ論駁スル  
 處ヲ以テ在京ノ三十六藩ニ廻達ス其書ニ曰方

今内外大小ノ憂患四方百出シ皇國ノ危急旦夕  
 ニ迫ルコレ幕府ノ失體少ナカラサルニ長防ノ  
 所置マタ寛大ノ趣意ヲ失フ故ニ衆議合論國是  
 フ一定シ朝廷幕府ヲ扶助シ藩屏ノ任ヲ竭サン  
 トス兩肥ニ筑米澤柳川忍ノ七藩之ニ應セス  
 此日伯耆守松平宗秀老中ヲ罷メ越中守牧野貞  
 明ニ預ケラル蓋シ長ノ重囚兵戸小田村ヲ放還  
 スル罪ヲ以テナリ 此日又大和ノ殘徒井澤宜  
 菴大阪ノ獄中ニ病歿ス 二十七日曉長州勢豊  
 前鳥越馬崎村ニ襲撃小倉兵苦戦頗ル困却ス

肥後勢長  
軍ヲ破ル

肥後ノ隊將溝口藏人精兵一千五百ヲ以テ之ヲ  
援ケ大ニ長軍ヲ敗リ首級三十八ヲ得ル長藩急  
ヲ馬関ニ報シ援兵ヲ得テ復振ヒ遂ニ日夕ニ及  
ヒ兩軍退去ス此日幕艦富士山ハ長ノ砲臺ヲ攻  
撃シ飛龍丸ハ上陸ノ兵ヲ伐チ四天丸ハ殊ニ勇  
進夕刺下ノ関ニ相迫リ發砲瀬戸筋乗接ケ上筋  
ニ繫船休息ノ上歸帆ス又此日大阪ニ於テ幕府  
脩前守牧野忠恭豐前守内藤信民ニ藝州口應援  
急出張ヲ命ヌ日夕ヨリ豊後ノ地大暴風兩岡  
ノ近隣殊ニ甚シク大洪水ニ及ヒ損所潰家等十

文  
田  
卷之四

幕兵小倉  
ヲ退去

小倉城自  
燒

シハ三十日肥後勢故ナク小倉ヲ拂フテ歸國ス  
尋テ飛彈守立花鑑寛ノ軍又小倉ノ應援ヲ棄テ  
去ル老中小笠原壹岐守長行豫シメ其異變アラ  
シ事ヲ察知シ附屬ヲ纏メ富士山艦ニ駕シ退帆  
ス此機ヲ覺リ中務大輔有馬慶頼ノ軍モ又収ム  
此ニ於テ小倉ハ孤立保存スヘカラサルニ到ル  
此日大阪ヨリ老中伊賀守板倉勝静上京朝廷  
ニ奏請シテ曰大樹家茂病勢愈長執務ニ堪ヘス  
慶喜ヲ以テ相續ナサシメ且ツ名代トシテ防長  
ニ差向ント朝廷之ヲ聽ス八月朔日小倉城困

文  
田  
卷之四

疲極リ遂ニ自燒ニ及ヒ香春ノ要害ニ退キ藩主ノ家族ハ肥後ニ走リ臣下ノ老幼ハ筑前ニ遁ル主膳正本多康穰京師ノ守衛ヲ蒙リ長征ノ從軍ヲ解ルルニ日因藩脱走ノ廿二士雲州田結ノ浦ニ於テ追捕兵ト鬪ヒ松江藩之カ救應シ詫間半録吉田直人中野平治太田権右衛門山口謙之丞等此ニ斃ル餘ハ海路ヲ石州ニ走リ長州ニ入ル七日五畿内山陰山陽江濃勢尾ノ諸州大風雨京師ハ紫震殿公卿門大破損洛外所々ノ大木ヲ吹倒シ桂川ニ丈餘出水丹州由良川ハ四丈八

近畿暴風雨

狸山ノ戦争

尺ノ大洪水久家流失夥シク大坂ハ川々落橋多シ米津川碇泊ヲ繫船又多ク破損又四日市及ヒ姫路等ハ稻毛七分ヲ滅ス九日小倉藩小笠原ハ左衛門島村志津广島津盛ハ三隊不意ニ長藩ノ屯所城野新町ヲ襲フ長軍敗退之ニ依テ民家ヲ放火ニ及ヒ引揚ク此日豊前守牧野誠成石州口ノ應援ヲ免サレ居城田邊ヲ固メシム十日一日豊前狸山ニ於テ長兵小倉藩小笠原出雲ノ隊ト接戦大ニ破レ三十餘人死傷アリ十二月花山院前右大臣家厚病ヲ以テ卒ス年七十八

大樹大坂  
三薨ス

十七日長藩又狸山ヲ攻撃勝敗ヲ決セスレテ去  
ル小倉兵加藤貫之丞浦野端藏杉永某等死ス  
廿日大樹家茂遂ニ大坂ノ陣中ニ薨ス年二十一  
廿七日小倉勢大舉シ足立山人麓ニ大ニ長軍  
ヲ破ル 廿八日幕府請メ處メツテ公卿及ヒ在  
京ノ列藩ヲ朝廷ニ會シ以テ大樹護喪長征止戦  
且ツ資望アル諸侯ヲ闕下ニ召シ其衆論ノ歸ス  
ル處ヲ施行セントス 廿九日安藝守淺野茂長  
ニ朝命ヲ以テ長州ニ休兵ヲ傳令ス 此日幕府  
ノ儒員塩谷世弘卒ス年五十九世弘字毅候号宥

長征休兵

二十四卿  
建言

陰山形藩ナリ文章ニ長スルヲ以テ選舉セラ  
ル 此夜人アツテ京師三條橋ノ高札ヲ除キ其處  
在ヲ失フ 三十日正親町三條大納言實愛大原  
左衛門督重徳中御門右大辨經之柳筥右中将隆  
韶高野右少將保美等ノ廿四卿建論シ幕府ノ失  
政ヲ舉ケ大ニ忌メレ之カ為メニ謹慎ヲ命シ守  
兵ヲ其家々ニ置ク 九月八日大納言尾張慶勝  
中納言紀伊茂承中納言前田齊泰鍋島閑叟伊豫  
守伊達宗城大隅守島津久光長岡良之介護美ヲ  
朝廷ヨリ急ニ上京ヲ命シ尋テ阿州筑前藝州津

朝廷大藩  
ヲ召ス

土藩新選組ト戦フ

松山ハ父子ノ内仙臺因州津山松江久留米備前柳川ヲ召ス上杉越前會津素名ハ在京ニ依リ之ヲ除カル九日幕府ノ軍目松平権之介豊前大橋ノ驛ニ於テ長藩へ止戦ノ應接ヲ為ス此頃二條齊敬閑白左大臣内覽長者隨身兵杖ヲ辞ス嘉陽宮朝彦親王又國事扶助ヲ固辞ス之レ國体ノ維持其任ニ堪へ難ク且諸藩召ノ義押テ奏上恐縮ニ依ル然レ共其請ヲ聽サレス十二日夜土州藩京師三條橋ノ高札ヲ下ス新選組ノ浪士埋伏ヲ三所ニ起シテ之ト戦ノ土藩藤崎吉五郎

窮民蜂起

安藤謙治即死ニ及ヒ宮川助五郎ハ重創ヲ得テ縛ニ就キ松島和介中山鐵太郎等五人ハ逃遁ス新選組原田左之介橋本會介内海治郎以下傷ヲ被ル此夜裏辻左中将公愛ノ邸ニ大砲三發スル者アリ薩人ノ所業ナリト風説ス蓋シ要路ニ媚ヒルヲ惡ムト云フ十六日幕府二條ノ定番ヲ廢ス十七日英吉利船數賀ヲ退帆ス之レ十五日ニ入港シ海岸ヲ測量シ欲スル處アル故夕リ廿八日有栖川妙勝定院官薨去ス此月江戸各所ニ窮民蜂起シ豪商ニ援ヲ乞ヒ甚シキハ

小倉藩各  
所ニ防戦

諸侯ノ邸ニ迫リ以テ數所ニ屯集ス市尹有馬阿  
波守井上信濃守説諭ヲ加ヘ其救方ヲ五ヶノ寺  
院ニ設ケ漸ク鎮静ス十月三日ヨリ七日ニ至  
リ伊豫大洲ニ窮民沸騰シ豪戸數十ヲ破壊ス  
四日長藩豊前城山ヲ放火シ上曾根下曾根ニ於  
テ小倉藩小笠原兎角同ハ左衛門同織衛ノ三隊  
防戦兵藤森之介長藩二人ヲ撃取ル勝敗ヲ分ク  
スレテ夕刻止戦ス七日長藩又高津尾小豆ヶ  
鼻丸山ノ胸壁ヲ攻撃小倉藩島村志津广二本求  
馬ノ二隊防戦利アラスレテ狸山ニ引退屯集ス

召ノ諸侯  
上京

江戸神田  
大火

十三日周防守松平康英ノ封ヲ武州川越ニ移  
ス十三日小笠原壹岐守長行ハ老中ヲ罷ム  
廿日相州横濱大火此月大學頭藤堂高潔脩前  
守池田茂政淡路守蜂須賀茂韶筑前守前田慶寧  
出羽守松平定安等召ニ依テ京師ニ登ル十一  
月朔日二條城ニ在京ノ諸藩ヲ會ス下野守黒田  
慶賛上京ス九日江戸神田永富丁ヨリ出火シ  
南方築地ニ延焼シ石川島ニ飛火ス二十四日  
幕府勘定奉行小栗下總守政寧小監察末城安太  
郎ヲシテ関東ノ部落荒地其外新聞ノ地所ヲ巡

將軍宣下

廻セシム此月ノ下旬ニ至リ長州ノ軍小倉藩  
ト和平ス十二月五日中納言慶喜正二位權大  
納言兼右大將征夷大將軍ニ任ス九日和宮ヲ  
静寛院宮ト改称ス十一日作州津山播州赤穂  
攝州尼ヶ崎ノ數所ニ窮民大ニ蜂起ス十八日  
越中守松平定敬積年疲弊且違作ニ依リ藩士扶  
助領民救窮ノ為メ金一萬兩ヲ惠恤ス十九日  
會津藩原錠之進松坂源吾弟泰治父兄ノ仇郡山  
藩藪田極ヲ其宅ニ擊ツ二十九日辰ノ刻孝明  
天皇痘瘡ヲ患テ遂ニ崩ス寶篋三十六

會藩復讐  
孝明天皇  
崩御

公卿ノ謹  
ヲ解ク

○三年正月二日民部大輔松平昭武佛蘭國へ航  
海ノ為メ京師ヲ設ス木村莊藏澁沢榮一篤太高  
松凌雲會藩横山海老名以下之ニ扈從ス八日  
大坂ニ於テ英吉利人竹内日向守松野孫八郎ト  
應接ス十五日有栖川熾仁親王正親町大納言  
實德廣幡大納言忠禮德大寺中納言實則長谷三  
位信篤東園中将基敬石山左兵衛佐基佑五茶少  
納言為榮百里小路右中雜博房平松甲斐權介時  
厚石山少將基文五辻大夫安仲等ノ參朝ヲ免シ  
謹慎ヲ解ク廿五日有栖川熾仁親王中山大納

孝明天皇  
御葬送

言忠能橋本中納言實麗勸修寺前右少辨經理滋  
野井中将實在ノ謹慎ヲ又解ク廿七日孝明天  
皇ヲ東山月輪ノ陵ニ葬ル前関白忠熙右大臣公  
純内大臣忠房左大将實良大納言有長大樹慶喜  
中将容保中将定敬以下扈從ス此時ニ方リ三  
條實美等ノ五卿入京ヲ免サレ國喪ヲ以テ防長  
ノ討手ヲ解兵ス二月五日英吉利佛蘭西亞米  
利加和蘭ノ公使大阪ニ入港ス此日大樹應接ノ  
為メ下阪ス七日奥州塩竈大火三十三人焼死  
ス二十八日尾州紀伊越前薩州兩肥土州備前宇

各國ノ公  
使上坂

浪士関港  
ヲ難ス

英吉利人  
敷賀ニ陸

和島等ノ九藩へ條約教許兵庫関港ノ諮問アリ  
二十七日前関白九條尚忠ノ謹慎ヲ免サル  
三月二十九日山階宮正親町三條中納言中御門  
右大権以下二十四卿ノ謹慎ヲ解キ久我前内大  
臣建道岩倉前中将具視千種前少将有文富小路  
前中務大輔敬直等ノ入京ヲ聽ス此頃浪士関  
白傳奏議奏ヲ始メ縉紳ニ書ヲ呈シ條約教許兵  
庫関港ヲ難ス四月十二日大隅守島津久光入  
京尋テ伊豫守伊達宗城中将松平慶永入朝ス  
十三日日月赤キ事火ノ如シ十五日英吉利人



行  
浪士縉伸  
ニ迫ル

大坂ヨリ敦賀ニ陸行此夜伏水ニ泊ス朝廷和蘭  
ノ先蹤ヲ引キ之ヲ聽ス十六日備前土州ノ浪  
士正親町中將公董鷺尾侍從隆聚ニ逼リ英吉利  
人通行ノ事件ヨリ有志ノ議論沸騰シ野々宮中  
納言ヲ始メ要路ニ參シ變事ヲ釀サントス動乱  
ノ機既ニ萌ス國家ノ為メ權職ト謀リ至當ノ所  
置ヲ伏願ス之ニ依リニ卿滋野井中將實在侍從  
公壽ト謀リ國事掛リ近衛内大臣忠房一條左大  
將實良九條大納言道孝ヲ鼓舞シニ條攝政齊敬  
ニ闕下暴發危急且夕ノ建論ニ及ヒ攝政愕然直

傳議ノ内  
職ヲ解ク

國事掛リ  
解役

チニ傳奏野々宮中納言定功議奏廣橋大納言胤  
保六條中納言有容久世宰相中將通熙ノ職ヲ解  
キ有志ノ藩暴發異人潛匿ノ説ヲ以テ幕府ニ抱  
ハラス薩州因州備前ノ三藩ニ京師ノ守衛ヲ命  
セラル十八日大樹慶喜老中所司代ヲ具シニ  
條家ニ參シ一條左大將九條大納言葉室中納言  
長順ニ會シ異人潛伏三藩警衛其職掌ノ立サル  
ヲ以テ大ニ論シ詰リ虐説信用ニ陥入ル十九  
日國事掛近衛内大臣一條左大將九條大納言議  
奏柳原大納言ノ職ヲ褫キ三藩ノ警衛ヲ聽シ滋

四卿禁綱

野井正親町鷺尾等ノ四卿粗忽ノ罪ヲ以テ謹慎  
ヲ命シ守衛ノ兵ヲ置ク尋テ日野大納言資宗ヲ  
傳奏ニ任ス二條攝政又辭職シテ用ヒラレス  
此日奥州會津ノ城下大火千四百五十四軒ヲ以  
ス廿四日遠州掛川宿ニ於テ日光ノ幣使武者  
小路少將公香ノ從臣英吉利人ノ旅館ニ夜撃ス  
防衛ノ幕吏克ク拒戦シ發砲ノ猛烈ニ恐怖シ忽  
チ敗散傷ヲ得テ三名縛ニ就ク掛川藩兵ヲ出シ  
英吉利人ノ警衛ヲ勤ム少將公香天使ヲ輕蔑ス  
ト憤シテ其狀ヲ奏ス英人閱セヌ次日發途ス

掛川宿ノ  
史

朝鮮人呈  
書

五月朔日山内容堂上京 七日朝廷ニ公武ヲ會  
シ兵庫開港ノ可否ヲ論セシム 十二日對馬守  
宗義達幕府ニ朝鮮ノ國書ヲ傳達ス蓋シ之レ近  
時朝鮮人佛蘭西人ト兵端ヲ開ク故ヲ以テ本邦  
ヲシテ佛蘭西ト拒絕ナサレノントス 十八日  
英吉利人敦賀及ヒ近海ヲ測量ス 廿四日朝廷  
兵庫開港ヲ可トスルノ藩衆キヲ以テ敕許ス  
廿五日長防ノ處置寬大ヲ公布シ四ヶ年來朝敵  
ノ高札ヲ除ク 此日幕府菅沼右近將監ヲ佛蘭  
西國へ留學ヲ命ス 廿六日大目附松平大隅守

兵庫開港  
ヲ許ス

耶蘇宗肥  
前二布ク

新選組ノ  
暴殺

勘定奉行星野豊後守小笠原伊勢守大阪町奉行  
竹内日向守等ニ兵庫開港ノ取扱ヲ命ス 六月  
四日小笠原壹岐守長行外國事務總裁ニ任ス  
十三日肥前浦上村近傍ニ耶蘇宗大ニ行レ兵ヲ  
出シテ其八十五人ヲ収縛ス 此夜京師松原礫  
ニ土藩山本甚水戸藩住谷寅之介ヲ暗殺ス 十  
四日夜京師守護職邸ニ於テ新選組浪士茂木司  
佐野七五三介中村五郎富川十郎ノ四人ヲ暴殺  
シ中井三彌以下六人ヲ放逐ス之レ近藤勇ノ刺  
薄ヲ會津藩佐タル震ナリ 十五日大樹慶喜朝

筑前藩英  
人ヲ暗殺  
ス

廷ニ建論シ野々宮等ノ四卿誣横ニ沈ムヲ復職  
セシメ盛惑ノ弊源ヲ絶ン事ヲ請フ 廿一日幕  
府小監察小林甚六郎ヲ以テ筑前等ノ五藩ニ令  
シ三條實美以下四卿ノ上京ヲ促カス 廿八日  
河内守井上正直老中ヲ辞免ス 此日鍋島閑叟  
入朝ス 七月六日夜肥前長崎ニ於テ筑前藩金  
子才吉英吉利人二名ヲ暗殺ス此時村沢右八郎  
以下七人ノ同行アリ各其状ヲ自訴ス筑前ノ老  
臣野村東馬之ヲ壅蔽シ罪ヲ他藩ニ譲ル 十二  
日故右大臣家茂ニ從一位太政大臣ヲ贈ラル

幕下ノ士  
原市之進  
ヲ殺ス

八月六日銀山ノ殘黨三牧藤藏秀胤京獄ニ病歿  
ス 七日幕府山城全國ヲ朝廷ニ献ス 十四日  
鎮下ノ士鈴木恒太郎弟豊次郎依田雄太郎江戸  
ヲ脱シテ京師ニ潛入シ幕府ノ監察原市之進ヲ  
害シ首級ヲ擄ヘテ老中板倉伊賀守ノ邸ニ抵リ  
恒太郎ハ罪戾書ヲ執次ニ託シ自殺ス豊次郎雄  
太郎ハ門前ニ屠腹ス然シテ原ノ臣逐来リ三首  
級ヲ得テ歸ル蓋シ之レ原ハ元水戸藩ニシテ烈  
公ニ愛セラレ然モ武田ノ縁族タルニ尊攘ノ大  
義ヲ沮ムヲ以テ之ヲ惡ムナリ恒太郎ハ次日死

赤松小三  
郎殺サル

諸藩士ヲ  
二条城ニ  
會ス

ス 九月三日上田藩赤松小三郎ヲ京師ニ殺ス  
道路薩人ノ所為ナリトス蓋シ小三郎洋式ノ軍  
術ニ熟シ薩ニ入テ大ニ用ヒラレ強テ國ニ歸ラ  
レ車ヲ乞ヒ又幕府ニ問スルノ疑惑ヲ得シナリ  
ト云フ 廿一日大樹慶喜從一位内大臣ニ昇ル  
廿三日松山ノ世子式部大輔松平定昭ヲ老中ニ  
任ス 十月十三日紀州三浦休太郎尾州尾崎八  
右衛門越前伊藤友四郎加州前田内藏太薩州小  
松帶刀内田仲之介仙臺松崎仲太夫筑前久野四  
兵衛肥後田中典議肥前百武作右衛門藝州辻将

曹土州後藤象次郎神山左多衛福岡藤治因州真野大治郎河毛文藏阿州永江播戶備前牧野權六郎彦根岡本半助高松小夫兵庫津垣根九右衛門藤井鼎介佐竹長瀬兵部久留米柘植傳八山村源太夫松江高橋伴藏川越鐵田三郎太夫米沢真野寬介盛岡津田又六姫路青木平藏高田鶴見八右衛門二本松增子文藏宇和島都築莊藏庄内大野與一右衛門郡山新井弥左衛門忍牧久八岡本金藏津山奥村枚夫柳川宮崎國之介小倉入江宗紀清水勘解由大垣素山豐三郎市川元之介松代長

谷川深水中津富士谷彦右衛門溝口寺田喜三郎津輕赤石禮次郎富山磯部新九郎等ノ三十九藩士ヲ二條城ニ呼ヒ大樹慶喜之レニ對シ政權ヲ朝廷ニ歸シ以テ萬國並立ノ基礎ヲ立ント其意見ヲ諮問ス薩州藝州土州備前宇和島ノ五藩士之レヲ慫慂シテ其政柄ヲ解カン事ヲ説ク大樹殊ニ坐ヲ之ニ賜ヒ猶詳論セシム十五日大樹遂ニ意ヲ決シ宇内ノ形勢ヲ考察シ外國ノ交際ヲ盛シニナシ經紀ヲ更張シ舊習ヲ改メント政權ヲ朝廷ニ奉還ス朝廷此ニ於テ新政ヲ會議セ

大政奉還

將軍職奉還

ニト列藩ヲ急召ス 廿日朝廷諸藩士ヲ召レ五  
卿ノ處分及ヒ外國ノ事宜ヲ諮問ス在京ノ四十  
七藩大概姑ク大樹ニ委任シ諸侯ノ會同ヲ待テ  
之ト決スヘシト云フ 廿四日内大臣慶喜將軍  
職ヲ辞表ス朝廷即チ優獎之ヲ許シ諸侯上京ニ  
テ舊ニ依リ之ヲ掌トレト此時徳川譜代ノ諸侯  
大ニ疑惑ヲ懷キ朝廷ニ勸メ輕易ニ政ヲ執ルナ  
カラシメントス 廿九日傳奏日野大納言資宗  
ヲ宣命使トシ泉山歷代ノ帝陵ニ王政復古ヲ告  
ク 十一月朔日勢州古市ニ石降ル 八日銀山

坂本中岡  
暗殺

伊東武明  
殺サル

ノ殘黨伊藤龍太郎祐之京獄ニ病歿ス 十六日  
夜土州藩坂本立馬直柔中岡慎太郎道正京師ノ  
旅寓ニ於テ幕府ノ臣今井某 等ノ為メニ殺サ  
ル蓋シ直柔ハ積年勤王ノ勞アリ諸州ヲ奔走シ  
テ大ニ謀ル處アルヲ以テ佐幕ノ士之ヲ忌ミ今  
井等此夜十津川郷士ノ偽名ヲ假リ以テ斃セリ  
十八日夜新選組隊長近藤勇策ヲ設ケテ伊東  
武明甲子 太郎ヲ暗殺シ猶暴虐ヲ逞フシ之カ同盟ノ  
有志ヲ併殺ノ姦謀ヲ七條油小路ニ構ヘ遂ニ其  
徒ヲ此ニ誘導シ以テ伏ヲ四方ニ起ス伊東ノ黨

三士又屠  
ラル

服部武雄三郎藤堂良全平助毛内監物之卜戰テ死  
ス鈴木三樹三郎秦泰之進富山弥兵衛以下傷ヲ  
得テ遁レ薩邸ニ潜リ之ヲ復仇ヲ謀ル蓋シ此舉  
タルヤ伊東ヲ始メ新選組ニアリシカ尊攘ノ大  
義ヲ論シ離隊ニ及ヒ專ラカヲ王室ニ盡シ薩州  
ニ依テ謀ル者アリ又長ニ通スノ疑惑ヲ得シナ  
リ二十日北小路俊昌ヲ堂上ニ班ス此日銀  
山ノ殘黨黒田與市重隆京獄ニ病歿ス之中島太  
郎ノ弟ニテ大坂ニ住シ鎗客ナリ二十五日兵  
庫ノ地ニ泥ヲ降ラス廿七日近衛左大臣忠熙

泥降ル

文政復古  
卷之四

十七

王政復古

一條右大臣兼左大将實良共ニ其職ヲ辞ス九條  
大納言道孝左大臣兼左大将ニ昇リ大炊御門内  
大臣家信右大臣ニ轉シ醍醐大納言忠禮内大臣  
兼右大将ニ叙ス十二月八日九條前関白久我  
前内大臣岩倉前中将千種前少将富小路前中務  
大輔ノ蟄居ヲ免シ還俗ヲ命シ滋野井中将同侍  
從正親町少将鷲尾侍從ノ謹慎ヲ解キ三條實美  
三條西季知東久世通禧四條隆誥壬生基脩ノ官  
位ヲ復シ沢宣嘉ノ處在ヲ尋ヌ九日王政復古  
ノ大變革ヲアツテ攝政関白内覧國事掛傳議兩

文政復古

卷之四

十七

顯職參朝  
ヲ止ム

奏門流ヲ廢シ敕問ノ人數ヲ止メ尋テ二條前左大臣九條左大臣大炊御門右大臣嘉陽彈正尹宮近衛前関白鷹司前右大臣德大寺前右大臣一條前右大臣廣幡内大臣日野大納言柳原大納言葉室大納言廣橋大納言飛鳥井中納言六條中納言野々宮中納言久世前宰相中將等ノ參朝ヲ止ム此夜江戸麻生白銀臺織田攝津守邸ニ浪士乱入シ砲器金銀ヲ掠奪ス 十日會津藩ノ蛤門守衛ヲ罷メ更ニ土州ニ命ス 十一日守護職松平宰相容保所司代松平中將定敬共ニ職ヲ罷ム毛

守護職所  
司代ヲ廢  
ス

長州官位  
復旧

鷲尾野  
山ニ向フ

參與ヲ置  
ク

利平六郎毛利内匠ヲ朝廷ニ呼ヒ本支ノ官位復舊ヲ傳命セシム 此日鷲尾侍從隆聚朝命ヲ會々諸國ノ有志香川敬藏伊藤源介芳野昇太郎大橋慎三山形小太郎三宮耕菴里見綱之介山本一郎田邊健介水野八郎山田小次郎等一百余人ヲ率テ密カニ京師ヲ襲シ高野山ニ向フ 十二日參與役所ヲ置キ大原宰相万里小路右大輔宰相長谷三位岩倉前中將橋本少將ヲ以テ之ニ任ス 此日加賀宰相中將慶寧闕下動乱ノ萌ヲ窺ヒ内大臣慶喜ニ退京ヲ勸メテ歸國ス 此日村井



幕府下坂

修理少進政禮京獄ニ斬ラル 此夜内大臣慶喜  
宰相容保中将定敬侍従勝静以下二條城ヲ急襲  
レ三十八門ノ大砲ヲ牽キ軍備嚴整シテ下坂ス  
永井玄蕃頭竹中丹後守新見相摸守榎本和泉守  
以下殘ル蓋シ之レ薩長土藝宮闕ヲ守リ銃隊ヲ  
備ヘ斥候ヲ各所ニ出シ徳川家ノ兵ハ二條城ニ  
據リ以テ屹然相對シ加フルニ會衆ノ憤兵車ヲ  
作サントス故ニ尾越ノ二侯大ニ内府ヲ諫メ遂  
ニ兵ヲ持シテ去ラシム然ルニ内府京師ノ市民  
ニ現米三千石金六千兩ヲ施シテ去ル 十三日

野山ニ勤  
王ノ兵ヲ  
募ル

人オヲ舉  
參典ニ任  
ス

鷲尾侍従高野ニ登山シ十津川兵ヲ募リ救命ヲ  
以テ紀州ヲ壓伏セシメ華城ニ不軌ヲ謀ラハ之  
ヲ撃ント窺フ 在京ノ幕臣陸續下坂ス 廿四  
日正親町少将公董烏丸侍従光徳參與ニ任ス  
十五日薩州岩下方平佐治右衛門西郷隆盛吉之介大久  
保利通市尾州田中不二磨丹羽淳太郎荒川  
甚作越前中根雪江酒井重之丞毛受鹿之介土州  
後藤象治郎神山左多衛福岡藤治藝州櫻井典四  
郎久保田平治肥後溝口孤雲津田山三郎横井平  
四郎ヲ選舉シ參與トス 此日幕府歩兵二大隊

浪士薩邸  
ニ據ル

浪士菽ノ  
山中ヲ燒ク

ヲ淀城ニ籠ルコレヨリ先キ江戸芝薩州邸ニ浪士屯集シ益満休之介伊牟田永種尚之レカ管轄ヲナレ相良總藏隊長タリ此夜鯉淵四郎岩谷敬一郎横山明平河崎秀老以下五十余人相州菽ノ山中出雲守大久保教義ノ陣營ニ夜撃シ銃砲金銀ヲ畧收ス然モ火ヲ放テ去ル其外豪戸ニ依テ大ニ軍資ヲ募ル 十八日朝廷鍋島閑叟細川良之介ヲ急召シ越前三國八郎柳川十時攝津ヲ參與トシ因州土肥謙蔵大垣小原二兵衛ニ上京ヲ命シ博ク人才ヲ諮詢アリ 此日伊東武明ノ殘

藤ノ杜ノ  
復仇

黨薩邸ニアツテ復讐ヲ謀リ近藤勇ノ二條城ヨリ伏水ノ歸途藤ノ森ニ於テ之ヲ襲フ勇良馬ニ鞭シテ走ル阿部十郎小銃ヲ發シ之レカ左肩ヲ貫ク勇屈セス馬ニ伏シテ遁ル其從士五名此ニ屠ラル武明ノ弟三樹三郎同志新井陸之介加納鷗雄以下二十余人伏水ノ薩邸ニ據テ奉行所ニ屯集スル近藤勇土方歳三ヲ狙フ新選組又援ヲ會津ニ乞ヒ多勢ヲ以テ之ヲ鑿殺セントス事此ニ佐徳シ薩會ノ間ニ兵端ヲ開クト衆剋目ス 廿一日參與長谷三位ヲ議定ニ轉シ西園寺中將

江戸ノ薩  
邸破ラレ

公望尾州田宮如雲ヲ參與ニ舉ケ五條少納言柳  
 原侍從西四北大夫ノ之カ加勢トナス世四日  
 大藏大輔松平慶永朝命ヲ會ミ天下阪ス世五  
 日江戸薩邸ニ潛メル浪士暴行熾盛ニ及ヒ左衛  
 門尉酒井忠篤ノ屯營ニ砲撃シ富商ヲ剽掠スル  
 毎夕ナリ幕府其薩藩ノ浪士ヲシテ関東ヲ乱ス  
 ヲ怒リ遂ニ此日追捕ノ令ヲ大和守松平直克和  
 泉守松平乘秩伊豆守松平信庸紀伊守酒井忠良  
 及ヒ左衛門尉忠篤ニ下ス之ニ於テ六藩ノ兵薩州  
 是ニ浚路守島津忠寛ノ邸ヲ圍ミ大小砲ヲ發シ

尾越飯京

テ攻撃ス浪士應砲スト雖モ衆ニ敵セズ遂ニ破  
 ラレ相良總藏鯉淵四郎等海岸ニアル蒸氣船ニ  
 駕シテ西奔ス伊牟田永種伊丹啓一郎等ハ品川  
 海ヨリ乗船シテ又西下ス此日薩藩兵ニ浪士數  
 十人討レ益滿休之介齊藤八郎以下縛ニ就ク者  
 七十一人上ノ山藩金子六左衛門三輪彦兵衛等  
 十五名ノ死傷アリ庄内復死傷多シ二十七日  
 朝廷金穀出納所ヲ置ク三十日大納言尾張慶  
 勝大藏大輔松平慶永大阪ヨリ歸京ス是乃テ内  
 大臣慶喜ニ諭シ輕裝ニテ入朝ヲ促ス處ナリ

文明史略 卷之四

大日本... 隆聚... 誣横... 有容... 長順... 公香... 義達... 刻薄... 弊源... 誣横... 有容... 長順... 公香... 義達... 刻薄... 弊源... 誣横... 有容... 長順... 公香... 義達... 刻薄... 弊源...

軍 ○ 宗徳 沮ム 眞正 拘留 遺憾 冠履 顛倒 宗城 公愛 航高 誣横 有容 長順 公香 義達 刻薄 弊源 誣横 有容 長順 公香 義達 刻薄 弊源...

二月ロ各

壅蔽ヨウヘイクフサ 德トク憑ヒョウメスルハ 作セキ侯コウモノ 屹キツ然ゼンスキルト

華城クワシヨウノ大坂城オオサカシヨウ ○光德クワウタク方平ホウヘイ朝チウ目モクソメクヲソ

○忠篤チュウタク割掠カクカオスビヤカシ ○乘秩セリツ信庸シンユウ忠チュウ

良リョウ忠寬チュウケン輕装ケイサウイテタルチキ ○乘秩セリツ信庸シンユウ忠チュウ

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

